（様式１）

# 学力向上のための重点プラン【小学校】

**新宿区立四谷小学校**

■　学校の共通目標

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業づくり | 重点 | ・「ねらいの提示」と「振り返り」を行い、ねらいを明確にした授業を目指す。 | 中間評価 | おおむねできるようになってきたが、教科等によっては課題も残る。 | 最終評価 | 「学習感想」等を通じて、その時間のねらいと振り返りを行う授業が増えた。 |
| 環境づくり | | ・落ち着いて学習に取り組むことができるように、教室前面の掲示物の内容や量に配慮し、刺激量を調整する。 | | 徐々にユニバーサルデザインを意識した教室掲示になってきている。 | | 各教室ともユニバーサルデザインを意識した教室掲示を行った。 |

■　学年の取組み内容

| 学年 | 教科 | 学習状況の分析（10 月） | 課　題（10 月） | 改善のための取組み（10 月） | 最終評価（２月） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 国語 | 学平仮名はおおむね書けるようになったが、誤った文字や鏡文字を書いてしまう児童もいる。<br>学２学期から漢字の学習が始まったが、まだ定着していない児童もいる。<br>学文章の内容を読み取る力に個人差がある、 | ・とめ、はね、はらいを意識して正しい文字を書くことに課題がある。<br>・漢字を正しく書いたり、文章の中で使ったりすることに課題がある。<br>・文章の内容を読み取る力に課題がある。 | ・誤った文字は訂正し、書き直しをさせ、正しい文字を身に付けさせる。<br>・漢字の練習プリントを使って、反復練習を繰り返す。また文章の中で使えるように指導する。<br>・読み取りのポイントに線を引かせながら、読み取らせるようにする。 | ・平仮名については、とめ、はね、はらいを意識して正しく書ける児童が増えた。個人差があるため、引き続き個別指導を行う。<br>・プリントを使って漢字の反復練習を行うことで、習熟度は向上した。今後は、文章の中で正しく使えるように、国語の作文や家庭学習を充実させる。<br>・読み取る活動の際、ポイントに線を引き、１つずつ確認していくことで、読み取る力は概ね身に付いてきたといえる。 |
| | 算数 | 学２学期に、繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算を学習したが、まだ指を使って計算していて時間がかかってしまったり、正しく計算できなかったりする児童がいる。<br>学文章題の読み取りが苦手で、内容が理解できないため立式できない児童もいる。 | ・足し算や引き算の計算や、１０の補数がすぐに分かることに課題がある。<br>・文章題の読み取りに課題がある。 | ・算数の授業の前には１０の補数を言う活動を取り入れ、計算に生かせるようにする。<br>・文章題は、分かることと聞かれていることに線を引かせ、立式につなげる。 | ・１０の歩数がすぐに分かるようになり、繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算を正確に計算できるようになった。<br>・文章題の文章の読み取りを図を使って表す活動を繰り返すことで、正しく立式できる児童が増えた。個人差があるため、個別指導を行う。 |

| 学年 | 教科 | 学習状況の分析（４月） | 課　題（４月） | 改善のための取組み（４月） | 中間評価・追加する取組み（10 月） | 最終評価（２月） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 国語 | 学文章を構成する力や書く力は、おおむね満足できる状況である。<br>学送り仮名や正しい語句を用いて、つながりのある文章を書くことに苦手意識をもつ児童がいる。<br>学「読むこと」については、登場人物の気持ちを読み取って、意欲的に音読をする児童が多い。 | ・「　」や丸や点などの基本的な使い方に課題が見られる。<br>・学習した漢字を使わずに文章を書く児童が見られ、言語についての知識・理解、技能を定着させていく必要がある。<br>・文と文を関連付けて読み取る力に課題がある。 | ・言葉の意味だけでなく、つながり方や文章の構成について指導を工夫する。<br>・朝学習や授業のはじめにドリル学習を取り入れるなどして、新出漢字や言語を確実に定着させる。<br>・話すこと、書くことを中心に自分の考えをもち、発表する場を多く設けていく。また、自分の考えを話し合う活動を計画的に位置付ける。 | ・１学期よりも文章が書けるようになってきた。理由や順序などにも気を付けて書くことができるようになってきた。<br>・漢字も確実に定着しつつある。<br>・分かりやすく要点を絞って話すことには課題があるので、引き続き自分の考えを話し合う活動を計画的に位置付けていく。 | ・区学力調査の結果、ほとんどの項目において目標値を上回っている。中でも「言語についての知識・理解・技能」については大きく上回っており、改善の取り組みの成果が出たと考えられる。<br>・「読む能力」に課題が残る。いろいろな文章に触れ、内容の読み取りをする機会を増やしていく必要がある。 |
| | 算数 | 学２位数を含む加法・減法については、すべての児童がおおむね理解できている。繰り上がり・繰り下がりのある計算について理解が十分でない児童が見られる。<br>学友達の考えをすすんで聞く態度は育っているが、自分の考えを図や式を使って説明する力には個人差がある。 | ・繰り上がり、繰り下がりの加法、減法の筆算については習熟に個人差が見られる。<br>・自分の考えを図や式や言葉を関連付けて表現する力に課題が見られる。 | ・答えの見積もりや位取りの意識を明確にもつように計算の指導を行い、その意味を理解できるよう学習に取り組ませるとともに、朝学習や家庭学習でも学習事項の復習を繰り返し行い、定着を図る。<br>・ペアや小グループで自分の考えを発表する活動を計画的に位置付け、互いの考えのよさに触れさせる。 | ・既習の学習を生かしたり、友達の考え方を聞いたりして、考えを広げ、深めることができるようになってきている。<br>・繰り下がり、引き算にまだ課題がある。引き続き、朝学習や家庭学習などで習熟を図る。 | ・区学力調査の結果、「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」については、目標値を下回っている。児童が意欲的に取り組める授業展開を考えていく必要がある。<br>・「数量や図形についての知識・理解」も目標値とほぼ同じである。引き続き、朝学習や家庭学習などで習熟を図る必要がある。 |
| 3 | 国語 | 調観点別に見ると、どの観点もおおむね満足できる状況である。特に「書く能力」や「読む能力」については、全国平均よりも約１０ポイント以上上回っている。比例して、領域別でも「書くこと」や「読むこと」が１０ポイント以上全国よりも上回っている。<br>学与えられた課題に対しては、黙々と取り組むが、自らの考えを発表したり、丁寧に文字を書いたりすることには、個人差が見られる。 | ・文章を読んだり友達の発表を聞いたりするときに、自分の考えや感想をもちながら聞くことに課題が見られる。<br>・グループで話し合ったり聞き合ったりして、自らの考えを深めることに課題がある。 | ・漢字や文法の使い方などの基礎的・基本的な内容を確実に習得させるために、朝学習時にドリル学習や漢字練習を積極的に取り入れて習熟を図る。<br>・ペアや小グループで自分の考えや感想を発表することや、それを聞いた感想を書く機会を多くする。<br>・自分の考えを明確にして書く力を身に付けるために、読み取って分かったことや思ったことをワークシート等にまとめる活動を計画的に位置付ける。 | ・聞く姿勢が不十分な時や指導者と１対１の授業になってしまう時があり、まだ自分の考えをもったり深めたりすることには課題が残る。<br>・引き続き小グループ学習を多く取り入れたり、指導者の問い返しを多くしたりすることによって考えを深めることを目指す。 | ・区学力定着度調査の結果、ほとんどの項目において目標値を上回っている。中でも「話す聞く」「読む能力」については、大きく上回っている。４月の課題と比べると、改善のための取り組みが功を奏したと考えられる。<br>・「関心・意欲」に関しては、前年度とあまり変化がない。主体的に考え、より楽しく深く学べるような授業の構築が必要である。 |
| | 算数 | 調全体の正答率が、全国平均を１０ポイント以上上回っており、満足できる状況である。<br>調全ての観点別の正答率が全国平均を上回っている。特に、「数量や図形の技能」「知識・理解」の正答率は全国平均を１０ポイント以上上回っており、十分満足できる状況にある。<br>学課題に対して集中して取り組み、多様な考えを出そうとする意欲も高い。 | ・数直線に示された数を読み取ったり、ものさしのメモリを読み取ったりすることに課題が見られる。 | ・長さや大きな数に関する知識と技能を向上させるために、朝学習や授業中にドリル学習やプリントによる復習を取り入れる。<br>・具体物を使う活動や体験活動を多くし、数と結び付けて考えることにより、数量に関する感覚を養う。 | ・改善の取り組みの効果が出てきており、数直線やはかりの目盛を読むことは、的確にできるようになってきている。<br>・引き続き、具体物操作を取り入れた活動を多く行う。<br>・習熟のために、プリントだけでなくｅライブラリーも活用し、多くの問題に取り組ませる。 | ・区学力定着度調査の結果、ほとんどの項目において目標値を上回っている。領域別にみると、やや図形に課題が見られる。<br>・ドリル学習やプリントによる復習を継続して行っているので、基礎力はついている。活用能力をより上げるため、お互いの考えを聞き合うような授業をもっと増やしていく必要がある。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 国語 | 調どの観点も、おおむね満足できる状況である。特に「読む能力」「書く能力」については、全国平均よりも約１０ポイント上回っている。<br>調「言語についての知識・理解・技能」についても全国平均を上回っているが、約６ポイントであり、他の領域に比べると全国平均との差は少ない。<br>学書くことに意欲的な児童が多い。家庭学習も着実に行える児童が９割以上である。一方で、積極的に発言できる児童は半数ほどである。 | ・文章を読むことや書くことに意欲的に取り組むが、言葉の意味を正確に捉えていなかったり、作文で漢字を使えていなかったりする様子も見られる。<br>・友達の考えと比べながら発言したり聞いたりすることに課題がある。積極的に意見を言える子は、聞くことによる考えの深まりを感じられるように、聞くことが得意な児童は、自分の意見をまとめて伝えられるようにするなど、児童が自分の課題を意識して学習できるようにする必要がある。 | ・授業中にも、国語辞典を使って言葉の意味を調べる機会を多くとり、分からない言葉の意味を調べる習慣を身に付けさせる。また家庭学習と合わせて音読や漢字練習に取り組み、文章を読むことや漢字、言葉に慣れるようにする。<br>・小グループや学級全体で自分の考えや感想を発表し合ったり、書いたりする機会を多くとり、学び合うことで考えが深まることを実感できるようにする。<br>・習熟の差に対応できるように、学習グループの構成を工夫したり、個別指導を行ったりする。 | ・授業の中で意味や漢字の書き方が分からない言葉があったとき、自分からすすんで国語辞典を使って、言葉の意味や漢字の書き方を調べる姿が半数の児童で見られるようになった。今後も自分から調べる姿勢を促していく。<br>・ＩＣＴ機器を活用した考えの交流ができるようにしており、今後も効果的に進めていく。タブレットを活用した学習では８割以上の児童がすすんで意見を伝えようとしている。<br>・グループでの新聞作りでは、手順や分担を明確にすることにより、どの児童も意欲的に参加することができた。 | ・区学力定着度調査の結果、すべての項目で目標値を上回っている。中でも「話す・聞く能力」「読む能力」は平均正答率が 90%を超えている。小グループで意見を伝え合う活動が効果的であったと考えられる。<br>・「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」が、区の平均正答率よりもおよそ５ポイント上回っているのに比べ、「言語についての知識・理解・技能」はほぼ同じである。他の能力を伸ばすためにも、知識を定着させる指導の工夫が必要である。 |
| | 算数 | 調観点別、領域別共に、「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識理解」で全国平均を１０ポイント以上上回っており、おおむね満足できる状況にある。<br>調全体の正答率を見るとやや個人差が見られるので、習熟度に応じた指導が必要である。<br>学すすんで問題に取り組むことができる児童が多い。反面、自分の考えをノートに分かりやすく表現したり発表したりすることに苦手意識をもっている児童がいる。 | ・３年生までの学習を使って考える単元が増えてきたため、既習事項が定着していない児童の中には、算数に苦手意識を感じている児童もいる。<br>・自分の考えを分かりやすく表現したり、友達の考えに関心をもって聞き、自分の考えを深めたりすることに課題がある。 | ・家庭学習や朝学習で「東京ベーシックドリル」等を用い、繰り返し問題に取り組み、基礎・基本の確実な定着を目指す。<br>理解度を高めることにより、学習意欲につなげていく。<br>・習熟度別指導のクラス分けを工夫し指導する。自分の考えを表現し交流し合う学習を習熟度に応じて行う。<br>・自分の考えを分かりやすく表現したり、友達との交流で考えを深めたりするよさを実感できるようにする。 | ・家庭学習等で繰り返し問題に取り組むことにより、授業の中で既習事項を生かして考えをまとめることができるようになってきた。引き続き、プリント等を活用して、基礎・基本の定着を目指していく。<br>・習熟度別指導の打合わせを細かく行い、取り組む課題を明確にした。個別の課題に対応できるように、取り組みの様子についての情報交換を密にしていく。<br>・電子黒板等を活用し、意見の交流を行った結果、自分の意見を伝えようと意欲的な姿が見られた。引き続き効果的な活用の仕方を考え、交流を通して考えを深められるようにする。 | ・区学力定着度調査の結果、すべての項目で目標値を上回った。計算に関する領域は、平均正答率が 80%を超えており、繰り返し問題に取り組んだ成果が出ていると考えられる。<br>・基礎問題の正答率が、目標値を約 10 ポイント上回ったのに対し、活用問題の正答率は約４ポイント上回るにとどまった。定着している見方・考え方を使って説明し合うなど、意見の交流を取り入れた学習をより進めていく必要がある。 |
| 5 | 国語 | 調正答率は全国を５ポイント以上上回っており、どの観点も全国平均を上回っている。おおむね満足できる状況である。<br>調「読む能力」においては、全国平均を５ポイント以上上回っており、「読む能力」が向上していることが分かる。<br>学課題に対して意欲的に取り組むが、自分の考えを書くこと、発表することに苦手意識をもっている児童がいる。 | ・文章を読んで、内容を理解したり、筆者の伝えたいことをつかんだりすることはできるが、筆者の考えをもとに、自分の考えを書くことが苦手な児童がいる。<br>・自分の考えを発表し、意見を共有することでさらに自分の考えを深めたり広げたりすることに課題が見られる。 | ・文章を書く際に必要なことを具体的に示し、自分の考えの根拠を明確に示せるようにする。<br>・新出漢字を学習する際、漢字の練習とともに熟語や文作りも行うことで、文章力を身に付けられるようにする。<br>・少人数の話し合いからスタートし、話し合うことで自分の考えがより深まることを感じるようにする。そして、徐々に学級全体の中で自分の意見を述べ合い、考えを深められるようにする。 | ・自分の考えの根拠となる部分を踏まえて文章を書けるようになってきた。<br>・新出漢字を用いた熟語や文作りは、回数を重ねるごとに書けるようになっている。さらに、文章の中でも使う頻度を高め、新出漢字の定着を図る。<br>・少人数の話し合いを通して、自分の考えを少しずつ伝えられるようになっている。さらに、学級全体でも意見を伝えられるように話し合いの回数を増やしていく。 | ・区学力定着度調査の結果、ほとんどの項目において目標値を上回っている。中でも「書く能力」「読む能力」については、６ポイント以上、上回っている。４月の課題と比べると、改善のための取り組みが功を奏したと考えられる。<br>・「言語についての知識・理解・技能」に関しては、前年度とあまり変化がない。前年度までの言語事項を含めた習熟を授業に組み入れていくことが必要である。 |
| | 算数 | 調全体的な正答率の傾向からすると、既習事項がまだ完全には定着していない分野がある。<br>調「数学的な考え方」については、全国を約３ポイント上回っている。<br>学課題に対し、真剣に取り組もうとする姿勢が見られる。しかし、中には算数に苦手意識をもっている児童もいる。 | ・図形の定義や性質に対する理解に課題が見られる。<br>・算数に対する興味・感心に差が見られ、習熟度に応じた指導が必要である。 | ・短時間の学習時間を基礎・基本の定着の時間とし、プリントや「東京ベーシックドリル」などで反復練習をする。理解度を高めることで算数に対する苦手意識をなくし、次の学習意欲につなげていく。<br>・習熟度の差が開かないように、習熟度別クラスの編制を単元ごとに行い、個人に合ったペースで学習できる体制を整える。<br>・図形の学習の際には、実際に図形を作成するなどの操作的活動を取り入れることで、図形への理解を深めていく。 | ・基礎・基本の定着時間を設けたことで理解が高まってきた。まだ、算数に対する苦手意識を持っている児童がいるため、引き続き基礎・基本を中心に学習していく。<br>・習熟度別クラスの編制を単元ごとに行ったことで、理解度に合わせた授業展開ができた。さらに、個人に合ったペースで学習できる体制を整えていく。<br>・図形の学習の際には、操作的な活動を取り入れたことにより、理解度の向上と学習意欲につながった。 | ・区学力定着度調査の結果、概ね目標値を上回っているが、領域別にみると「数量や図形についての技能」において、目標値を下回っている。また、活用と基礎の別で見ても、基礎の値が目標値を下回っている。さらに、習熟度別クラス編制での授業の展開の工夫が必要である。<br>・活用能力をより上げるため、お互いの考えを聞き合うような授業をもっと増やしていく必要がある。 |
| 6 | 国語 | 調観点別にみると、「関心・意欲・態度」「話す聞く能力」「書く能力」「読む能力」については全国平均を上回っている。「読む能力」については、全国平均よりも約１０ポイント上回っている。<br>調「言語についての知識・理解・技能」の正答率は、全国平均とほぼ同じである。<br>調正答率分布から、正答率８０％以上の児童が約６割いる。<br>学漢字や言葉遣い等、言語事項に課題がある児童もいるので、日常から繰り返し指導する。 | ・前学年までに配当されている漢字の読み書きについて、十分定着していない児童の割合がやや高く課題がある。<br>・目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書くことにやや課題がある。 | ・目的に応じて内容や要旨を捉えながら読む能力を身に付けるとともに、読書量を増やすことで様々な考え方に触れて自分の考えを広げたり、深めたりして学習を進める。<br>・定期的に漢字の小テストを実施し、漢字を読む力や書く力の定着度を確認するとともに、個に応じた習得方法を見付け、定着度を上げる。 | ・ワークシートの活用等により自分の考えを書き表すようになっている。また、よりよい表現を取り入れようとする児童も増えている。さらに、読み聞かせや読書旬間などで本に親しむ時間を取り入れていく。<br>・国語辞典の活用等により漢字の読み書きの力が身に付いてきている児童もいるが、書写指導を含め引き続き指導する。 | ・区学力定着度調査の結果は、すべての項目で目標値を５ポイント以上、上回っている。特に「読む能力」は87.9 ポイントであった。国語科の授業改善のほか、読み聞かせや読書旬間などの取組の成果が表れたものと考えられる。<br>・「話合いの内容を聞き取る」については、個人差が大きいことが明らかとなった。メモの取り方や聞き方について、個に応じた指導の在り方を検討していくことが課題である。 |
| | 算数 | 調観点別にみると「数学的な考え方」は全国平均を約３ポイント上回っている。<br>調「関心・意欲・態度」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識理解」については個人差が見られる。<br>学基本的な計算に課題が見られることがあり、学年をさかのぼってプリント等で指導する必要がある。 | ・「どのようにこの問題が解けるだろうか。」と多様な考えを導き出すような問題では、集団解決の場において考えを再構築したり、自分の考えを広げたりすることが課題である。<br>・四則計算をはじめとする基礎的・基本的な内容の習得に課題が見られる。 | ・授業中に自分の考えをノート等に書いたり、発表したりする場を多く設け、解き方や考え方を書く経験を積み重ねることができるようにする。<br>・朝学習や算数の学習のはじめに、「東京ベーシック・ドリル」や児童の実態に応じたプリント学習等を行い、基礎的・基本的な力の定着を図る。 | ・図や表、式などに表わそうとする児童がほとんどである。他の考え方を参考にしたり取り入れたりしようとする意欲がやや低いのでノート指導等で意識させていく。<br>・比例の学習等、発問の工夫により既習事項を取り入れて考える児童が増えている。児童の考えを結び付ける授業の展開を検討していく。 | ・区学力定着度調査の結果から、全国の平均正答率は上回っているものの、評定１の児童が区平均より 12 ポイント高いことが明らかとなった。成績上位層と下位層の二極化が顕著である。<br>・「東京ベーシック・ドリル」を軸とした基礎的・基本的な力の定着をさらに進めていく必要がある。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 音楽 | 学学習意欲はどの学年も高く、歌唱においては６年生の歌声を目標に取り組んでいる。<br>学「こんなふうに演奏したい」というつぶやきがある一方で、ただ演奏するだけであったり、または技能に課題があったりする児童も見られる。<br>学ペアで聴き合ったり、アドバイスし合ったりすることで表現の高まりが見られる。<br>学表現活動を学級だけにとどまらず、学校全体に向けて行うことで、自己肯定感や達成感を感じられた児童が多い。 | ・学習意欲は見られるが、すすんで音楽と関わろうとする態度を培っていく必要がある。<br>・思いや意図の表現や技能の習熟度に課題が見られる。<br>・意見を共有することで音楽に対する視野を広げ、音楽活動への関わり方の深まりに課題が見られる。<br>・児童一人一人が音楽活動を通して自分の成長を感じることで、次への意欲につなげていく。 | ・授業のめあてや活動の見通しをもたせ、児童が自ら考えながら楽曲に向き合える環境を作る。<br>・児童の実態に即した題材を用いて、音楽づくりや鑑賞での感受を思いや意図につなげられるようにする。<br>・相互に評価し合う場や知覚したことを共有する場を設け、意見を交流する中で、よりよい歌い方に気付き、音楽の感じ方も広がるようにしていく。<br>・表現活動後の振り返り（ワークシート、視聴覚）を設定し、児童が自分自身の成長を実感できるようにする。 | ・他学年の発表を聴く機会を設けたことで、上学年の発声や声の響きを目指し、歌唱活動への意欲が高まってきた。<br>・鑑賞での知覚、感受したことを、器楽や歌唱に生かし、意図をもって演奏しようとする児童が増えた。<br>・ペアやグループ学習では、技能の習熟が見られ、友達と音や声を合わせる楽しさを見い出せた児童が増えた。<br>・ワークシートに言語化するだけでなく、表現活動の中で成果と課題も児童自身が見付けられるようにしていく。 | ・発達段階に応じた題材を用意し、ねらいや目標を明確にしたことで、技能の定着が見られた。<br>・鑑賞領域で多様な音楽に触れることで、音楽への見方を広げつつ、器楽合奏に還元することができた。<br>・楽曲に対する思いや意図を演奏後に口頭で発表したり、ワークシートに自分なりの言葉で表現したりすることができる児童が増えた。 |
| 図工 | 学全学年とも造形に対する関心意欲が高く、楽しんで取り組んでいる。<br>学材料などから感じたこと、考えたことをもとに、自分らしい発想を広げ、表したいことを見付け、表現することがおおむねできている。<br>学友達の作品にも興味があり、鑑賞活動も意欲的で、楽しんで取り組んでいる。 | ・題材からつくりたいものを思いつく発想力はあるが、作り出す前に、完成のイメージをもって制作するなど見通しをもって活動することに課題がある。<br>・制作途中で、いろいろ試したり工夫したりして、よりよいものにしようと追究する力を培っていく必要がある。 | ・導入の工夫や参考作品の提示のタイミングを工夫し、活動の見通しや完成のイメージをもたせる。<br>・制作途中で他の友人の作品やアイディアを紹介したり、児童自身が自分の思いに合わせて材料や用具、表し方を選んだりし、納得いくまで試みられるような場の設定を工夫する。また、失敗を恐れないように、試したり、繰り返しつくりかえたりできるような学習過程を工夫する。 | ・各学年で仕上がりが遅れる児童がいる。最後まで課題を仕上げる意識が高まるように毎時間仕上げまでの計画を分かりやすく示すようにしている。<br>・友達同士での鑑賞の機会を増やすようにしている。繰り返し試行できる題材を取り入れていくことで、自分のイメージが形になるよう追究する児童が増えてきた。 | ・各学年、活動全体の見通しをもたせることは引き続き必要である。また、完成のイメージを高められるように、発想のポイントを示し、参考作品なども適宜見せていく必要がある。<br>・各学年、友達の活動や作品に興味をもち、良いところをよく見られるようになってきた。また、自分の活動に取り入れたり、さらに工夫したりする児童も見られるようになってきた。 |
| 特支 | | | | | |